

川辺川ダム中止と荒瀬ダム撤去を実現して

五木から八代海までの再生を目指そう！

八代海

「上流の水害を防ぐためダムが必要」「影響もでない」と言われ、補償金もないまま、川辺川ダム建設を認めた。しかし、荒瀬ダムの影響が次第に出て、八代海の漁獲量も漁師も3分の1以下になり、ダムの弊害を思い知らされてきた。

坂本町

荒瀬ダムができると、「洪水はなくなる」「電気代はただになる」「観光客で潤う」と説明されダム建設に協力したが、増えた水害、ダム振動に50年以上苦しんできた。アユ漁に依存した地域産業は衰退し、人口も4分の1になった。

球磨村

市房ダム（放流）と瀬戸石ダム（ゲート締切）に囲まれて、水位が上昇するようになり、毎年のように起こる水害に50年間苦しんできた、ダム建設の弊害を被ってきた水害常襲地域。

50年間ダム問題に翻弄された流域の歴史に終止符を！



五木村

「下流のため」という言葉を信じて、離村・移転を余儀なくされた。50年経過してなお、村の将来が見えないまま、地域の疲弊、高齢化が進んでいる。生活再建が国・県の責任として残る。

誰のためのダム建設だったのか？

人吉市

市房ダム建設前、床下浸水程度の大水しかなかったが、建設後、急激な増水と甚大な被害を被るようになった。ダム建設は被害を増大させることを、身をもって体験してきたために、水害体験者が一番のダム反対者。

- ◆下流は「上流のため」、上流は「下流のため」と説得され、中流の人吉・球磨地方の水害体験者は、「ダムはいらない」という川辺川ダム建設とは何だったのか？
- ◆住民の粘り強い運動と政権交代により、川辺川ダムの中止は見えてきたが、住民が望む治水対策の実現・流域一とりわけ五木村の再生・荒瀬ダム撤去の実現までには多くの課題がある。

今、ダム問題を乗り越えて、流域を一つに！

「川辺川ダム中止と荒瀬ダム撤去を実現する県民大集会」

《賛同団体》

荒瀬ダムの撤去を求める会、荒瀬ダムの撤去を願う会、美しい球磨川を守る市民の会、NPO 法人環境ネットワークくまもと、ガイア水俣、川辺川大好き・津奈木から、川辺川利水訴訟原告団、川辺川を守りたい女性たちの会、企業組合エコネット水俣、共産党、球磨川・川辺川を守る漁民有志の会、球磨川さなぼり会、球磨川大水害体験者の会、国産豊表普及生産者会、子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会、次世代のためにがんばる会、自然観察指導員熊本県連絡会、下球磨・葦北川漁師組合、社民党、清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会、前坂本村議会議員と町民有志の会、チッソ水俣病患者連盟、中流域水害体験者の会、中河原カヌークラブ、ネイチャーやつしろ、本願の会、水俣病患者連合、水俣病市民会議、水俣病被害者互助会、水俣・ほたるの家、八代革新懇、やつしろ川漁師組合、八代北釣り愛好会、やつしろ自然観察会、八代女性市民の会、八代の環境を守る会、やまंतरろ・かわんたるの会。(あいうえお順)